

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 4年 3月 31日

事業所名: Musicco step

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	法令に遵守したスペースを確保している。	はい 22人 いいえ 0人	どちらとも言えない 1人 分からない 1人	契約時に保護者から要望があれば、療育スペースを案内するなど配慮する。
	2 職員の適切な配置	法令に定められた人員を確保している。事業所の特色としている音楽療法を専門とする職員を2名、ビジョントレーニングの資格を保持している職員を4名配置している。	はい 20人 いいえ 0人	どちらとも言えない 1人 分からない 3人	契約時の説明を徹底する。新しい職員がいる場合は、Musiccoだよりなどに紹介する形で記載し、保護者にも伝わるようにする。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	療育室内は段差がなく、バリアフリー化されている。トイレにも手すりを設置するなど工夫している。	はい 19人 いいえ 0人 未記入 1人	どちらとも言えない 1人 分からない 3人	療育室から2階の職員室に行くことが出来る階段があるため、階段を上らないよう周知を徹底する。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	机や玩具などのアルコール消毒を実施している。椅子は利用人数に応じてその都度準備している。	はい 21人 いいえ 0人 未記入 1人	どちらとも言えない 1人 分からない 1人	引き続き、掃除・消毒等を徹底する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的なミーティングは実施しておらず、気付いた時にその都度話し合いの場を設けていた。	/		今後は、職員が日々の業務の振り返り・改善を図っていけるよう、毎日朝のミーティングを実施する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部の専門家(公認心理士)によるコンサルテーションを実施し、環境設定・療育内容等について助言を頂く機会を設けている。	/		児童発達支援における個別療育を中心に評価してもらっているため、今後は放課後等デイサービスを対象とした外部評価も行っていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	最低でも月に1度の職員研修の機会を設けている。	/		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者からアセスメントシートや面談による聞き取りを実施し、日々の子どもの姿から支援計画を作成している。	/		利用児童や保護者のニーズに沿った計画の作成に取り組んでいく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別でのビジョントレーニングや集団での活動プログラム等、状況に応じた関わりを意識できるよう計画書にも記載している。	はい 20人 いいえ 0人 未記入 1人	どちらとも言えない 1人 分からない 2人	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	具体的な目標や支援内容を設定し、保護者への説明を実施している。	/		
適切な支援の提供 t (続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画に基づいた支援を行っている。モニタリング時に支援内容が適切か職員間で検討を行っている。	/		HUGシステムで、日々のサービス提供記録に子どもの支援計画が反映されるように設定を変更した。支援計画に沿った支援を行っているか、職員・保護者間で共有できるようにしていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	工作や室内遊びなどそれぞれの職員が担当し、内容を考えているが、職員間で話し合い、詳細は全員で考えている。	はい 20人 いいえ 0人 未記入 2人	どちらとも言えない 1人 分からない 1人	月間予定は職員1人で立てているため、今後は分担して行う。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇は、午前中に児童発達支援・午後に放課後等デイサービスを運営しているため、平日と同じ提供時間となっており、長期休暇に合わせた対応は現状出来ていない。	/		児童発達支援や放課後等デイサービスの時間枠を広げる等保護者・子どものニーズに沿った時間設定にする。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	同じような内容のプログラムが続かないよう、これまでの活動内容を振り返ったり、職員間で話し合う機会を設けることで工夫している。	はい 21人 いいえ 0人	どちらとも言えない 1人 分からない 2人	
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	午前中の営業時間と職員の出勤時間の兼ね合いもあり、支援開始前のミーティングの時間を持つことが出来ていなかった。	/		毎朝子どもの来所前にミーティングの時間を設けるようにする。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後は、サービス提供記録を記入する際に当日の子どもの様子について話し合うことが多く、その時間が振り返りになっていた。現状形式的に情報共有の場を設けられていない。	/		翌日朝のミーティングで、前日の支援の振り返りを行う。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	保護者向けのサービス提供記録には、その日の詳細な支援内容を記録している。業務日報にて日々のビジョントレーニングの実施記録のみ残している。児童発達支援は、個別療育のため詳細な記録を残している。	/		現状、放課後等デイサービスにおいて、日々の支援内容に関する記録を作成することが出来ていない。今後は、保護者だけではなく、職員間で共有するための支援記録を作成する必要がある。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	支援計画は定期的に職員間で共有し、モニタリングを行っている。	/		
	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	サービス担当者会議には、子どもの支援計画を立てている児童発達支援管理責任者が参加している。	/		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	事業所が今年度から始まったため、まだ具体的な移行支援を行うことが出来ていない。		4月以降は、保護者の許可を得てサービス提供記録を教育機関に開示し、連携を図れるように計画している。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在、利用児が小学生のみなので、卒業後の進路先への情報共有等は行っていない。		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関との繋がりがある子どもに関しては、サービス担当者会議等で連携を行うことがある。コロナ禍ということもあり、専門機関での研修受講は出来ていない。		専門機関で研修が開催された際は、職員に告知し受講を促す。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ禍の為、教育機関や地域の児童福祉施設との交流は現在出来ていない。	はい 4人 どちらとも言えない 4人 いいえ 4人 分からない 11人 未記入 1人	今後、地域の園や学校と連携しながら、交流を持てる機会を作れるよう検討していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現状実施出来ていない。		今後、事業所主催のイベントがある際は、地域の方も参加できるように計画していく。
	保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	初回の契約時に管理者から説明がなされている。	はい 23人 どちらとも言えない 1人 いいえ 0人 分からない 0人
2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		作成した個別支援計画を見せながら、口頭でも説明している。	はい 20人 どちらとも言えない 2人 いいえ 1人 分からない 0人 未記入 1人	
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施		昨年9月から11月にかけて、全6回のペアレントトレーニングを実施した。家庭での子どもの様子や日々の関わり方の振り返り・サポートブックの作成等を行った。	はい 15人 どちらとも言えない 0人 いいえ 0人 分からない 9人	来年度(令和5年度)も実施予定
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		送迎時に保護者と最近の様子について話したり、サービス提供記録のコメントで保護者が記入したものを確認している。	はい 22人 どちらとも言えない 1人 いいえ 0人 分からない 1人	サービス提供記録の閲覧が難しい保護者もいるため、可能な限り送迎時にその日の子どもの様子・気になった点などを話すように心掛ける。
5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		モニタリング等の面談時や保護者から電話で相談があった際に対応している。保護者からの発信が多いため、職員から相談しやすい環境を作っていく。	はい 17人 どちらとも言えない 3人 いいえ 1人 分からない 3人	職員の方から声を掛けたり、気になることは電話相談も受け付けていることを周知していく。
6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		現状、保護者会は実施出来ていない。ペアレントトレーニングの際に、保護者同士で関わる機会があった。	はい 7人 どちらとも言えない 4人 いいえ 5人 分からない 7人 未記入 1人	今後開催を検討する。
7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		契約時に、苦情がある場合の連絡先を記載した重要事項説明書を渡している。これまで苦情等がなかった為、具体的な対応を取ることが出来ていない。	はい 11人 どちらとも言えない 2人 いいえ 0人 分からない 11人	来年度の自己評価アンケートの際に、要望や気になることを匿名で記入できる自由記述欄を設ける。玄関等に要望内容と改善策・対応策を掲示し、共有する。
8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		子どもに合わせたコミュニケーションツール(絵カード・写真カード等)を使い、意思の疎通を計っている。	はい 21人 どちらとも言えない 2人 いいえ 0人 分からない 1人	
9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信		LINEのオープンチャットを活用して、定期的に事業所からのお知らせを発信している。玄関にも印刷したものを掲示し、オープンチャットに参加していない保護者にも見えるよう工夫している。	はい 23人 どちらとも言えない 1人 いいえ 0人 分からない 0人	
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応		個人情報に関する書類が入った棚は鍵付きにしている。	はい 20人 どちらとも言えない 1人 いいえ 0人 分からない 3人	
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	作成したマニュアルは職員間で共有している。保護者への周知が出来ていない。	はい 15人 どちらとも言えない 4人 いいえ 0人 分からない 5人	希望があれば、いつでも閲覧できるようにしておく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	職員室に災害バッグを備えたり、避難訓練を実施している。	はい 6人 どちらとも言えない 3人 いいえ 1人 分からない 14人	これまで訓練を実施しても、当日利用した児童の保護者にしか伝わっていなかった。Musicooだより等を通して、訓練の様子などを周知していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	職員全員で虐待防止研修を受講している。厚労省が発行している虐待防止マニュアルを読み、職員室にも保管している。		
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約時に、やむを得ず身体拘束が必要な場合は個別支援計画に記載し、保護者に同意を得ることを伝えている。現時点で、身体拘束を行う可能性のある児童の利用はない。		身体拘束にあたる対応が事業所内でされていないか職員間で改めて見直していく。また、新年度に向けて、身体拘束が必要となる児童の保護者には支援計画の確認と同意を得る。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当する児童の利用がない。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	子ども・職員共にヒヤリハット事例が起こった場合は、記録を残すことを徹底している。職員室内のハザードマップにヒヤリハット事例が記載された付箋を貼り、危険な場所を職員間で共有できるようにしている。		フルタイムの職員だけでなく、パート職員にも周知されるよう事例の共有を徹底していく。確認後はサインするなど工夫する。